教うるは 学ぶの 半ばなり

R６南信教育事務所だより

教学半也

令和６年７月11日
No.５

校内研究・授業改善にたずさわる全読者対象

第１回研究主任研修会　令和６年５月20日（諏訪・上伊那地区）21日（下伊那地区）

みんなで進める校内研究 ～実践発表より～

今回は、研修主任の経験が初めての方も含め、自校の研究を進める見通しをもつことをねらいとし、「研究主任としての役割と取組について」をテーマに、昨年度の研究主任の２名の先生にお話をいただきました。

諏訪・上伊那

永明中学校
鹿川 和哉 先生

＜発表の概要＞
★職員の必要感をアンケート等で把握
★職員の関係づくりを軸とした、学び合う気風の醸成
★教科の枠を越えた研究体制の構築に向けたチーム編成や話し合いの場の確保
★よりよい家庭学習へ向けた見直し（子供のためになっているか問い返しながら）

本校の課題①：教科の枠を越えた研究体制の構築

参加者感想

これまで、どこか、自分が具体的に手立てを提示して、率先して引っ張らなくてはいけないのかとプレッシャーに感じていましたが、研究とはそういうものではなく、一人ひとりが関わる、全員で取り組むべきものだと考えるようになりました。「一緒に」という雰囲気を作っていくことは大変なことかもしれませんが、子供たちのために先生方と「一緒に」作り上げる研究にしたいと思える発表でした。

下伊那

上村小学校
曽根原 亮 先生

＜発表の概要＞
★積極的な校外研修への参加
★研修での学びを生かした授業公開を基に全職員で目指す子供の姿を語り合う
★校務ＤＸで全職員の考えを共有
「みんなで、いつでも、どこでも」
★ベテランから若手までが互いに助け合い、学び合う気風の醸成

参加者感想

“たて”や“よこ”のつながりをつくることの大切さを改めて実感しました。教科研究会でどれだけ活発に意見が飛び交うかや、授業を見合える関係づくりも、やはり先生同士、人と人とのつながりがなくてはできないものなので、まずは第一歩、そこから始めていきたいと思いました。負担なく、日ごろの授業改善について話し合える雰囲気になるといいと思いました。

発表からは、子供のために、全職員で同じ目標を見定め、学び合う関係の中で一緒に進んでいこうとする思いが伝わってきました。その後のグループ協議でも、発表を踏まえて、研究主任としての役割や取組について熱心に語り合う参加者の皆さんの姿がありました。２名の先生方とその学校の取組を、それぞれの学校でも生かしていきたいですね。

【特集】探究する授業①

すべての先生方対象

考えてみよう「探究する授業」

今年度も、南信教育事務所では、長野県教育委員会刊行の「教育課程編成・学習指導の基本」（通称青本）にある３つの重点のうちの一つ、資質・能力の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善である「探究する授業」について、年３回の特集を組み、皆さんと考えてみたいと思います。
今回は、ＱＡ形式で「探究する授業」について考えてみましょう。

「令和６年度　教育課程編成・学習指導の基本（通称青本）」

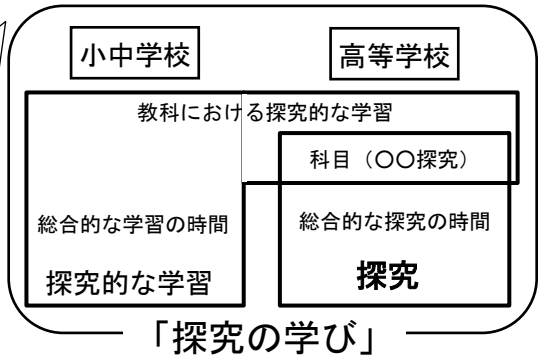
「探究する授業」はどうして大切なのですか？

子供は本来、知的好奇心に富み、自ら課題を見付け、自ら学ぶ意欲をもった存在であり、未知の世界を自らの力で切り開く可能性を秘めた存在です。こうした肯定的な子供観に立ち、子供の「問い」や「願い」を大切にし、教師が適切な教材の準備や指導性を発揮しながら、「探究する授業」を進めていくことで、**社会に出てからも探究心を絶やさず伸ばし、生涯に渡って学び続ける信州人の育成**につながっていくと考えられるからです。

「探究する授業」は、どのような学びがある授業ですか？

例えば、総合的な学習の時間における探究的な学習とは、**「問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく」**学習を指します。こうした問題解決的な活動が発展的に繰り返されていくことは、教科等の学習にも共通していて、長野県教育委員会では、それらを全てまとめて**「探究の学び」**と位置付けています（**図１**）。「探究する授業」は、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善ですから、子供が「探究の学び」を通して資質・能力を得ることができるよう、教師として「探究する授業」を進めていただければと思います。

図１



「探究する授業」に取り組みたいのですが、どのようなことを意識すればいいですか？

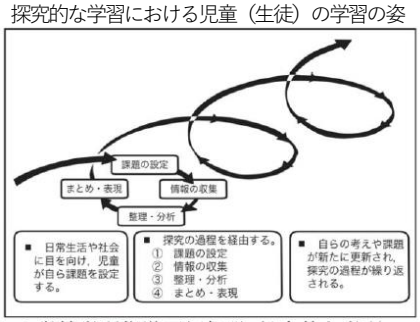
探究的な学習における児童（生徒）の学習の姿（**図２**）に記載された、探究の過程の４つのプロセスについて、青本では以下のように指導のポイントが示されています。

①課題の設定…子供が解決への意欲を高めるとともに、具体的な見通しをもって追究できるよう工夫します。
②情報の収集…課題解決に必要な情報の収集は、子供自身で行うことが大切です。
③整理・分析…子供自身がつくったり収集したりした多様な情報を整理・分析して思考していく活動に高めていくことが重要です。
④まとめ・表現…相手意識や目的意識を明確にするとともに、情報の再構築や新たな課題への自覚につなげることが必要です。

どの点からでもいいので、子供がより主体的に追究できるように、教師として適切な教材の設定や手立て等を工夫して、授業改善につなげていきましょう。

図２

探究的な学習における児童（生徒）の学習の姿



小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編（（　）内は中学校編）

南信教育事務所では、今後も学校訪問や研修会を通して、「探究する授業」について考えていきます。資質・能力の育成に向けて、「探究する授業」を、子供と共に創っていきましょう。
【特集】探究する授業②を13号で、【特集】探究する授業③を14号で掲載予定です。お楽しみに！！

すべての先生方（国語、算数・数学に関わる先生方）

調査問題を自校の授業改善につなげよう
～全国学力・学習状況調査を生かした授業改善・充実研修～

５月に、「全国学力・学習状況調査（以下、「全国学調」）を生かした授業改善・充実研修Ⅰ」を開催し、調査問題の出題の趣旨や記述問題等の正答例や採点基準を見ながら、調査問題を基にした授業改善のポイントについて、参加者の皆さんと考えました。

ここでは、国語、算数・数学の研修で扱った内容の一部を紹介します。調査問題と解説資料は、二次元コードを利用し、国立教育政策研究所のホームページをご覧ください。

小学校　国語

【一-一設問の趣旨】（第3学年及び第4学年の「話すこと・聞くこと」の設問）

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる。

【和田さんに届いたメールの内容】

あて先　△△△@△△△△.△△.jp
件　名　オンライン交流について

海風小学校　和田　みなみさん

はじめまして。
深緑小学校の村木です。わたしの学校は、全校で105人います。学校の周りには、茶畑が広がっています。
今、わたしががんばろうと思っていることは、図書委員として、本が好きな子を増やすことです。
オンライン交流では、和田さんの学校の図書委員会の取り組みを教えてほしいです。
当日を楽しみにしています。よろしくお願いします。

深緑小学校　村木　かおる

【和田さんのメモ】

村木さんが知りたいこと
- 図書委員会の取り組み
- ○読書イベント
  - ・月に１回
  - ・クイズなど

自分が伝えたいこと
- ○アイデア給食
  - ・年に２回
  - ・自分たちが考えたこんだて
- 地いきならではの取り組み
- ○総合的な学習の時間
  - ・海の生き物の調査
- ○すなはまの清そう活動
  - ・学期に１回
- ○音楽クラブの演そう会
  - ・たん当の楽器は木さん
  - ・地いきの行事に参加

これは伝えたい

質問されたら答える

用意するもの
- ・クイズが書かれたカード
- ・海の生き物の写真

和田さんは、【和田さんに届いたメールの内容】を受けて、しょうかいする内容を、次の【和田さんのメモ】のように整理しました。和田さんは、どのように整理しましたか。その説明として最も適切なものを、下の１から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【正答】③相手が知りたいことを取り入れて、優先して伝えることを明確にした。

授業づくりへの生かし方（例）

調査問題のように、「話すこと」において、伝える内容を検討する際は、「自分の伝えたい内容」とともに、「聞き手の求めている内容」を併せて考え、優先順位を決めていくことが大切です。「伝える相手」が何を求めているのか、どんな方なのかを子供が明確にできる単元を構想してみましょう。

参加された先生の振り返り

「相手」を明確にするために、取材やインタビュー活動も取り入れた「話すこと」の単元を考えてみたいと思いました。また、「相手」を明確にすることの大切さは、「書くこと」の単元にも共通していると感じました。

中学校　国語

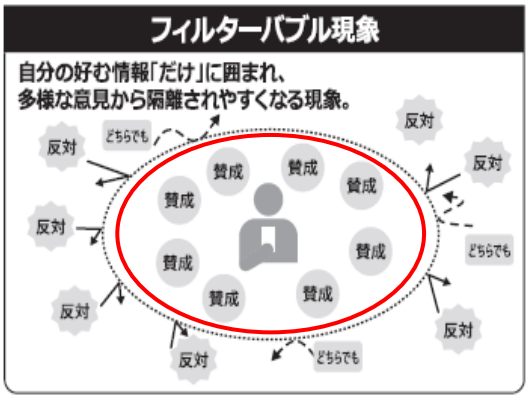
【一-二設問の趣旨】（第2学年の「話すこと・聞くこと」の設問）

資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる。

今井さん：たくさんの本がある中で、自分の好みに合った本を選んで示してくれるのは、便利ですね。①でも、他の本の情報に触れにくくなっているとは感じませんでしたか。

藤田さん：そうですね。言われてみれば、和菓子作りに関する本がたくさん表示されていたので、最近、それ以外の本の情報にあまり触れていなかった気がします。②〈図〉のこのあたりにいるような感覚ですね。今井さんは、ふだんどうやって本を選んでいるのですか。

〈図〉



【話し合いの一部】の―線部②「〈図〉のこのあたりにいるような感覚ですね。」について、〈図〉の中で、藤田さんが指し示していると考えられる部分を○で囲みなさい。

授業づくりへの生かし方（例）

藤田さんは<図>を指し示すことで、自身の感覚を分かりやすく伝えています。グラフや写真、情報を整理するための図表など、分かりやすく伝えるための資料や機器を、必要に応じて活用できる単元を構想しましょう。必要な資料や機器を検討したり、それらを活用することの効果を考えたりする機会を大切にしましょう。

参加された先生の振り返り

伝えたいことに関する写真や、キーワードをパワーポイントにまとめる活動はしていましたが、**その効果やそもそも必要なのかどうかを子供と共に考えてみたい**と思いました。

小学校　算数

【2(2)趣旨】除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる。

350 kg の米を１人に 7 kg ずつ配る場合と、１人に 0.7 kg ずつ配る場合を比べると、どのようなことがいえますか。

下の **1** と **2** と、**3** と **4** の中から、それぞれ選んで、その番号を書きましょう。

350 kg の米を１人に 7 kg ずつ配ると、50 人に配ることができます。

１人に 0.7 kg ずつ配るとき、配ることができる人数は、

50 人より **1** 多い　**2** 少ない　です。

350 ÷ 7 = 50 です。

350 ÷ 0.7 の商は、50 より **3** 大きい　**4** 小さい　です。

授業づくりへの生かし方（例）

ただの計算ではなく、場面と関連付けて「１人あたりの量が少なくなると配れる人数はどうなるのか」ということを考え、数量に対する「感覚」を磨くことが必要です。例えば、わる数に伴って変化する商の大きさについて、図を用いて、除数が整数の場合と比較し説明する場を設けたり、2ℓのジュースを 0.4ℓずつ分けて何人分できるかを実際に行ってみて、日常生活と結び付けて考えたりする機会を大切にしていきましょう。

参加された先生の振り返り

数学的活動を通して、子供たちの量の感覚を磨いていくことの大切さを実感しました。ただの計算問題とせず、**日常の生活に関わる題材を取り上げたり、どうしてそのような答えになったのか考えたりすること**から、算数が楽しいという声につなげていこうと思います。

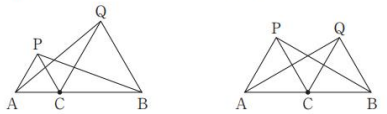
中学校　数学

【9趣旨】図形の性質を考察する場面において、次のことができるかどうかをみる。
- 筋道を立てて考えること
- 事柄が成り立つ理由を数学的に説明すること
- 数学的な結果を事象に即して解釈すること

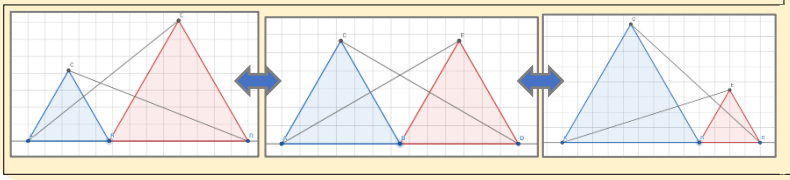
9　線分ABがあります。線分AB上に点Cをとり、AC、CBをそれぞれ１辺とする正三角形PAC、QCBを、線分ABについて同じ側につくります。そして、点Aと点Q、点Bと点Pを結びます。ただし、点Cは点A、Bと重ならないものとします。

桃子さんは次の図１のように点Cをとり、健太さんは次の図２のように線分ABの中点に点Cをとりました。

図１　図２



ＩＣＴ
図形作成ソフト



授業づくりへの生かし方（例）

１人１台端末を活用し、一人一人が図形作成ソフトを操作しながら、点 C が線分 AB 上を動いたときに変化する事柄と変化しない事柄について、視覚的、感覚的に捉えられるようにする場面を設けることが考えられます。

そして、子供が点の位置を繰り返し操作し、その変化の様子を観察することを通して、図形を考察していく姿が期待できます。

また、そのような活動を通して、新たな問いを見出す子供のつぶやきや発言を大切に捉え、次の学習へつなげていきま

参加された先生の振り返り

改めて子供の視点にそった授業づくりが大切だと振り返ることができました。個別最適な学びが求められている中で、子供の実態を把握して、ＩＣＴを有効活用し、その子が**自分なりの手段・方法で考えられる**ような授業を仕組んでいきたいです。

【全体を通して】参加された先生方の振り返り

調査問題や参加された先生方の意見から、**自校の子供の学習の状況を把握し、日々の授業の改善につながるヒントをつかむ**ことが大切だとあらためて思いました。今回の研修の内容を、校内の先生方にも共有していきたいと思います。

各校の研究グループ等で全国学調に関する情報を共有し、調査問題をヒントにしつつ、子供を真ん中に、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善につなげていきましょう。

「ちょっと読んでみよう」（資料紹介）

『令和６年度 教育課程編成・学習指導の基本』（通称：青本） PART４

本号では、「教育課程編成・学習指導の基本」の中の、「5 学習指導改善の重点の（3）教材研究の充実」について抜粋して掲載します。具体的な心構えが掲載されていますので、内容を基に、ご自身の授業について振り返ってみましょう。

こちらよりダウンロードできます

（３）教材研究の充実

①「子供」「教材（題材）」「学習の過程」の三つの視点に基づく教材研究

授業づくりにおいては，学習指導要領に示された，育成を目指す資質・能力を確認し，教科等の特質に応じた「見方・考え方」を踏まえた上で，「子供」「教材（題材）」「学習の過程」の三つの視点から教材研究をしましょう。また，１人１台端末等の ICT 機器の利用の面からも教材研究を進めましょう。

学習指導要領に示された目標及び内容を確認

	教材研究のポイント	ICT 機器の利用
子供	**素地となる資質・能力の把握** 本単元（題材）で扱う素地となる「知識及び技能」の習得状況はどうか，素地となる「思考力，判断力，表現力等」の育成状況はどうか。 **友や教師との関わり方の理解** 追究が行き詰ったとき，どのように打開しようとするか，友や教師の力を借りようとするのはどのようなときか。 **学級集団の理解** 個々の子供の実態を関連的・総合的に見つめ直し，学級の特色をつくり出している人間関係や子供の学習に対する姿の傾向性はどうか。	**基本操作の習得状況** ・キーボード入力の速度 ・クラウドの活用 ・インターネット上の情報検索・閲覧 ・情報の送受信や共有 **ICT を使った学習経験** ・文章の編集や図表の作成 ・多様な手段での情報収集 ・収集した情報の共有 ・文章や図表の同時共同編集 ・まとめ，発表
教材（題材）	**素材の研究** 単元（題材）目標に照らして，基礎的・基本的な内容を充足する素材かどうか。単元（題材）で育成する「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」を育む学習に適しているか。また，継続的・発展的に追究でき，個々の発想を十分に生かせる素材かどうか。 **教材化の研究** 素材について，各教科の特性に応じてどのような視点で捉え，それらをどのように思考して追究することができるか。どのような資料等の扱い方により，子供の気付きや疑問が生まれ，学習問題につながるか。また，有効な ICT の活用の仕方はどうか。	**使用する場面** ・情報収集の必要性 ・情報整理･分析のしやすさ ・情報のまとめ・発信のしやすさ ・情報共有の必要性 **使用するアプリ** ・使用場面に適したアプリの選択 ・アプリを使って同時共同編集したり，情報を整理・分析したりするなど，クラウドを利用
学習の過程	**学習の過程の構想** ①どのような**単元（題材）**の流れにするか。 ②**資料や事象等との出合い**はどうするか。 ③どのような**学習問題**を，どのように設定するか。 ④どのような**学習課題**が，どのように把握されるか。 ⑤どのような学習活動をして，どう**追究**するか。 ⑥どのようなことを，どう**まとめ**，**一般化する**か。 **主体的･対話的で深い学び** 本単元（題材）を通して育成を目指す資質・能力が偏りなく実現されるよう，単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら，児童生徒の主体的･対話的で深い学びの実現できる過程となっているか。	**一斉学習の場面** ・分かりやすい教材提示 ・クラウドを利用した双方向型の学習の日常化 **協働的な学習の場面** ・多様な考えに触れる工夫 ・考えなどを共有し，深めていく工夫 **個別最適な学習の場面** ・目的に応じた調べ学習 ・学習状況に応じた学習 ・各自で学習履歴を記録

② 授業がもっとよくなる3観点

ねらいを明確に　**学習問題（課題）を黒板等に分かりやすく示しましょう**

○　第一に，本時の到達目標でもある**ねらいを明確にして**授業に臨みます。ねらいが不明瞭であると，導入段階で子供が課題を把握するのに時間を費やしてしまいます。課題把握がスムーズにできるよう本時の展開の構想を明らかにしておきましょう。

○　子供が，「なぜ？」「どうして？」という問題意識や，「やってみたい！」「何とかしたい！」など追究意欲をもてるよう工夫し，**子供と共に学習課題を設定しましょう。**

めりはりをつけて　**触れて・関わって・考えて・感じて学ぶ場面をつくりましょう**

○　第二に，学習内容に**めりはりをつける**ことです。触れて学ぶ場面，関わって学ぶ場面，考えて学ぶ場面，感じて学ぶ場面を位置付けることで，実感的な理解が可能となります。学習内容に応じて授業の流れにどのようなめりはりをつけていくか，教材研究を十分に行いましょう。

○　関わって学ぶ場面では，子供たち自身が多様な考えを組み合わせ，自己の考えを広げたり深めたりすることができるように**課題を設定しましょう。**

ねらいの達成を見とどけて　**見返しや，定着・発展問題を行う時間をとりましょう**

○　第三に，授業の終末では，**ねらいの達成を確実に見とどける**必要があります。本時のねらいは達成されたのか，ノート等の記述や定着問題等から具体的に評価します。

○　皆で追究を見返し，子供の言葉で本時習得すべき内容をまとめる，その内容を活用して定着・発展問題を行う時間を確保して個々の子供の実態を把握する，補充的な学習が必要な子供には個別指導をていねいに行い，学習内容を定着させることなどを大切にしましょう。

③ 学習環境を整える

授業前に

①［**教材・教具，黒板等の準備**］「支度半分」という言葉があります。教師は，授業で必要な教材や教具等を準備し，教室の整理をしてから授業を始めましょう。

②［**出欠席の確認**］児童生徒の出席・欠席状況を確認し，不明な場合は職員室等へすぐに連絡し，対応しましょう。

授業では

③［**聞き合う態度の醸成**］互いの発言を尊重し，聞き合う態度は，話し手の表現力を引き出し，共に学び合う関係を築きます。まずは，教師が一人一人の子供の発言をていねいに聞き，授業にどう位置付けるかを考えることが大切です。

④［**児童生徒への声がけ**］その子供のよさを認める声がけ，困っている子供への温かい声がけ，学級全体の子供を勇気付ける一言等，児童生徒との関わりを大事にします。同時に，生命・人権に関わる問題点は見逃すことなく，毅然とした態度で接します。

⑤［**始めと終わりの時間厳守**］黒板を背にしてチャイムを聞くことやチャイムで終わる引き締まった授業を心がけることで，時間を守る見本を示すことができます。児童生徒が，「時間を大事にする意識」をもてるよう，まずは教師が時間を守りましょう。

授業のあとは

⑥［**プリント類の整理**］次時の学習以降で既習事項を見返すことができるよう，授業で扱ったプリントやノートなどの整理を呼びかけましょう。

⑦［**欠席した子供への配慮**］

欠席した子供にとって，授業の様子を伝えてもらったり一言が添えられた連絡カードが届いたりすることは嬉しいものです。一人一人の存在を大事にする上でも，欠席した子供への対応をていねいにしましょう。